



特集：挑戦

アンデス縦断タンデムツーリング

Tandem Touring through the Andes

ヤマハ発動機OB 高田 典男



図1 ペルー・アレキーパ付近の砂漠にて

Abstract

One of my hobbies is listening to Central and South American music. When I first heard Trio Los Panchos singing "Besame Mucho" on the radio in my early 20s, I remember feeling that this was the music for me. After that I became a serious fan of Central and South American music. When musicians from the Central and South American countries came to perform in Japan I would always go to the concerts, not only here in Hamamatsu but as far away as Nagoya. And, it became my dream to go to Central and South America someday and hear lots of this music I love in its native environment. I also decided that when it came time to make that journey to the Americas, I wanted to travel with my own transportation so I could choose my own schedule and routes free of the restrictions of moving with a group of people.

My other hobby happens to be motorcycling. Besides regular touring, I like to make changes to my motorcycle to expand its functions and ease of use and then test the usefulness of those changes in actual touring conditions.

I also love the scenery of the Andes Mountains where the Inca civilization once prospered. I was able to bring these three interests of mine together into one memorable touring trip through the Andes region.

Because travel agency tours are always shorter in length and because I have never heard of a tour specializing in listening to Central and South American music, I knew I would have to make my own trip itinerary in order to enjoy the local music and the scenery of the Andes. The style we decided on for our trip was "Slow and Deep [into the culture]." In this report I discuss the trip and the motorcycle we used.

1 はじめに

私の趣味は中南米音楽を聞くことである。20代のはじめにラジオから流れていたトリオロスパンチョスの「ベサメムーチョ」を聞き、私にピッタリの音楽だと確信した。以来、私はすっかり中南米音楽ファンになってしまった。中南米各国のラテン音楽演奏家が来日すると地元浜松での公演はもちろんのこと、遠く名古屋にまで足を伸ばしていた。そして、いつかは中南米へ行き、生の音楽をその国で思い切り聞きたいと考えるようになっていた。そして、その交通手段は、できればスケジュールやルートについて、何人にも制約されることなく自由気ままに行ける自前の交通手段がよいと考えていた。

一方、私のもうひとつの趣味がバイクである。単にツーリングをすることはもちろんであるが、使い勝手向上のための改造をして、それを確かめるためのツーリングが楽しみなのである。

また、私は、あのインカ帝国があったアンデス地方の景観が大好きでもある。結果として私の3つの趣味をドッキングさせたのが、今回のアンデス縦断タンデムツーリングなのである(図1)。

旅行会社催行ツアーでは日程も短く、しかも音楽を聞くためのツアーなんて聞いたことがない。音楽を聞き、アンデスの景色を楽しむとなると、十分に時間をかけることが必要。そこで私達の旅のスタイルは「ゆっくり、どっぷり」となる。

2 どんな荷物を持って行くの?重さは?

携行した荷物は、以下の通り。総重量は、^{ふうたい}風袋込みで、しめて約49kg。

(1)衣類(下着3着、シャツ、Gパン2着、冬期用長袖上下肌着1着、厚手靴下、ブルゾン、バンダナ、防寒防雨用ライディングウェア、パジャマ)

(2)洗面用具、地図、旅行案内書

(3)音楽を思い切り楽しむための機材(パソコン、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、ウォークマン、セパレートスピーカー、それらのアダプター等の周辺機器及び取扱説明書)

(4)常備薬、予備部品、工具(表1)

(5)万能整備キット(針金、ガムテープ、絶縁テープ)、パンク修理キット、ガス欠時にガソリンを分けて貰うためのビニールホース、小型組やすりセット、ハクソー(金切鋸刃)

表1 予備部品・工具

部品	工具
・スパークプラグ	・ヘキサゴンレンチ
・燃料フィルター	・コンビレンチ
・メインジェット	・スパナ
・ブレーキレバー	・スクリュードライバー
・スプロケット	・トルクスドライバー
・電球	・プラグレンチ&アーム
・タイヤチューブ&バンド	・プライヤー
・燃料ホース	・先細プライヤー
・針金	・タイヤレバー
・絶縁テープ	・エアポンプ
・ガムテープ	・ニップルレンチ
・パンク修理セット	・虫回し
・キャブレター部品	・小型組やすり
	・ハクソー

3 ルート・日程・移動距離

ルートと日程は表2、図2の通り。1日の移動距離の目安は 250～300km。これまでの最長は590.6km。気に入った場所には1ヶ月以上もどっぷりと滞在する。

表2 日程

日程	訪問地	
2005年12月15日	ブラジル	サンパウロ / サンミゲルアルカンジョ / アリアンサ / フォスドイグアス
2005年12月30日	パラグアイ	シウダデルエステ / アスンシオン / マリスカルエステ / ガリバ / パフィアル
2006年1月10日	ボリビア	ビジャモンテス / サンタクルス / オルーロ / スクレ / ラパス / タンボケマド
2006年4月17日	チリ	プトゥレ / アリカ
2006年4月25日	ペルー	タクナ / アレキパー / プーノ / クスコ / アヤクーチョ / ビスコ / リマ / バランカ / ワラス / ユンガイ / サンタ / トウルヒーヨ / トウンベス / サルミージャ
2006年8月23日	エクアドル	ワキージャス / ビルカバンバ / クエンカ / キト / オタバロ / クエンカ
2006年10月4日	コロンビア	※地上移動を断念し、エクアドルのクエンカより空路、コロンビアのカリへ移動。



図2 ルート

4 道路条件は？

幹線は、概ね快適な舗装道路。しかし、なにぶん大半がアンデス山中を通るので、時折ダートでしかもマッド、パウダー、沢渡河、登坂降坂、ヘアピンカーブと、あらゆる道路条件にお目にかかる(図3)。気象条件は、炎天から厳寒、豪雷雨、雹等にも見舞われた。走行速度はヘアピンカーブと市内以外は、ほとんど全開で55～65km/h。



図3a 舗装道路(ペルー)



図3b 砂利道(ペルー)



図3c パラグアイの悪路



図3d ボリビア“死の街道”

5 アクシデントは?故障は?バイクの耐久性は充分か?

今回のタンデムツーリングに使用した車両は、T90N(ニュースメイト)である。アンダーボーンタイプは足着き性がよいし、軽量であるので取り回しがしやすい。また、車高が低いので荷物が積みやすいという利点もあって、この車両を選んだ。

これまでのアクシデントといえば、ペルー山中の超ダートのヘアピンカーブで転倒1回。故障は皆無。さすがは耐久性抜群のニュースメイト。実は、アンデス縦断タンデムツーリングは今回で2度目であり、バイクは新車に更新したが、ヘッドアッシーだけは前回の車両のものをそのまま使用しているので、走行距離はもう、61,000kmをオーバーした。

6 素晴らしいバイクの旅

バイクツーリングの素晴らしさは、いつもオープンエアで、寒暑風雨だけでなく、匂いや香りや埃や音をもろに体感できるところにある。そして視界は360度。道中の素晴らしい景色や村の行事など、気に入った所でバイクを止めて、しばし眺め入るのは最高のぜいたく。必要であれば一旦通り過ぎてからでも容易に戻って確かめることができる。未知の土地のすべてを体感できるのである。

一方、バイクの弱点は一般に寒さであろう。しかし今回の車両は、レッグシールドを始め、充分なウィンドプロテクションをしてあるし、グリップヒーター付きだ。そして最近の耐寒ライディングウェア、シューズは完璧だ。ほとんど寒さを感じない。アンデスの山野高原を眺めながらのツーリングは実に楽しい。

7 素晴らしいラテン音楽

日本で民謡や歌謡曲やポップスのライブを気軽に聞くことは至難の技だが、ラテンの国々の良い所は、わざわざ目指すジャンルのライブ音楽を一生懸命探し求め歩かなくても、「犬も歩けば棒に当たる」の諺通り、全国各地で生の音楽を昼日中から日常茶飯事的に実に容易に耳にできる。特にチケットを買ってコンサートに行かなくてもいいのだ。大抵はアンプで音をイジってないので、音がすぐナイーブだ。コンサートと違い、演奏者との距離も近いので表情も分かるし、会話だって交わすこともできる。今回も行く先々の街のレストランやプラサ、街角で、思い切り大好きな音楽を飽きるほど(決して飽きることはないが)堪能した(図4)。



図4 ペルー・アレキパのfolklore

8 安全

日本にいと、「中南米は治安が悪いんでしょう？ そんな国々へ、よく行きますね!」と、よく人から言われる。なるほど、日本での報道や外務省の「海外安全情報」によれば、世界中から危ない情報が伝わってくる。しかし、これらは、かなり限定された地域のことであると思う。その限定地域を避けて、かつ、常に周囲の状況に気配りをしていれば(当然その国の人々も暮らしていることだし)、格別危険とは思わない。私達は道中、例えば人気のないところでの休憩や昼食、用便等は極力避け、常にこれから先の道路危険情報を、複数の人達からヒヤリングをした上で移動をしている。

9 気になる経費は？

中南米の物価は安い。特に衣食住費は実にお得だ(図5)。従って面倒でリスクなキャンピングや自炊などしなくても、衣食住その他一切含めて日本での生活とほとんど変わらない経費で暮らすことができる。ちなみに、ボリビアでの1ヶ月の総経費実績は13万円であった。



図5 現地での食事の例
ペルーのクイ(モルモット)料理

10 おわりに

バイクでのツーリングは、西部劇の1シーンに似ていると思う。平原を馬で飛ばした先に街が見えてくると、一体どんな街だろうか？平穏な街か？それともならず者が闊歩している街だろうか？一瞬馬を止めて様子を伺い、やがてゆるゆると馬を進めて街に入っていく。そんな光景に似ている。未知の大地をドキドキしながらも、わくわくしてツーリング(旅行)をする。何と素晴らしいことか。それには何よりも自身の健康第一。そして安全運転第一。皆さんも是非 実行してみませんか？

■ 著者



右より
高田 典男
Norio Takada

ヤマハ発動機OB
(1998年退職)

高田 和子
Kazuko Takada